

新基地建設反対名護共同センター ニュース

三期目は誰一人取り残さない沖縄らしい優しい社会へと

九月十三日(日)投開票の沖縄県知事選挙に立候補を予定する現職の玉城デニー知事を支える「県民と歩む会」は八月二十二日、宜野湾市の沖縄コンベンションセンターで総決起大会を開き、三期目の勝利に向けて団結を固めました。

大会開始前、ロックバンド「紫」の宮永英一さんのドラムと歌で、一気に会場は熱気に包まれました。

玉城氏は「これからの四年間は、新たな課題に取り組む。誰一人取り残さない沖縄らしい、優しい社会をつくるために頑張っていく」と語りました。

首里城火災やコロナ等への対応のほか、県税収入が過去最高額に上ったことなど二期八年の実績を紹介。その上で「今までの支援からこぼれてしまった人達をセーフティーネットで救う(おきなわゆいまーる基金)の創設」等を訴えました。

市民を代表してあいさつした宜野湾市の仲宗根愛子さんは、沖縄の基地の過重負担にふれ、「玉城知事は対立ではなく、文化や人とのつながり、誰一人傷つけない覚悟だ。真の平和をあきらめない」と連帯を呼びかけました。

子ども二人を連れて参加した仲地妃奈子さんは「デニー知事のもとで子ども医療費の窓口無償化、給食無償化が目に見えて進みました。自民党の推す候補がこれだけできるか疑問です」と話します。また、何度も行かなければならない歯医者での治療や検診にはとても助かっていると語り、「誰一人取り残さない」政策を引き続き広げてほしい」と期待します。

嘉手納基地爆音訴訟原告の男性は、「基地問題の解決には国にはつきりものが言える人でなければならぬ」と指摘し、玉城知事の三選を呼びかけました。



デニー必勝総決起大会

伊江島「米軍LCT爆発事件」をこれからも語り継ぐ

伊江島で未使用爆弾を積んだ米軍LCT(上陸用舟艇)が爆発し、死傷者が出た「米軍LCT爆発事件」から今年で78年。

事件は、1948年8月6日夕方、海洋投棄する予定で積み込まれた125トンの爆弾が荷崩れを起こしてLCTもろとも爆発。

同時刻、栈橋に島の連絡船が到着したばかりで107名が死亡し、100余名が負傷した。

伊江島の戦争は、4月16日から4月21日までの6日間で全滅。慶良間諸島に強制収容されたり、本島に疎開したりした住民が島に戻ってきたのは2年後の1947年。

焼け野原の土地に家建て、畑を作り、復興しかけた頃の大爆発であった。

住民は爆弾輸送港湾作業隊として米軍の作業に動員されており、日銭稼ぎのために輪番で軍作業に従事させられた。

LCT爆発事件が語り継がれなかった1つの理由は、「自分たちが従事していたことが原因で、多くの方々が犠牲になって申し訳ない」という証言もあるが、危険を伴う戦後処理を住民に強制されていたのも事実である。事件は戦争の延長であり基地被害でもある。

この事実を多くの人たちに語り継いでいくことが大事だと考えた。

2018年、LCT爆発事件の起きた校区内の小学校6年生と担任たちは、体験者から聞き取り調査を行い、「時をこえ 伝えよう」と

いう平和劇を自作し、学習発表会で知らせることにした。その中で、「これからは自分たちが語り継いでいくんだ」と演じた子どもたちからの頼もしい声があった。「これからも次世代の皆さんと共に語り継いでいきたいLCT爆発事件の事実を!」 玉城 睦子

(米軍LCT爆発事件8.6の会副会長)



LCT爆発事件の劇 2019年12月1日

患者からもエール “千バリョー ドクターなおこ!!”



高岡なおこ候補

下さい。私たち家族も全員・全力で応援したいと思っています。

佐久川 正一

しかし、まだまだ知名度は浸透していない状況です。市民の皆様のお力をぜひ高岡直子候補にお寄せませんか。

私は、糸満のクリニックで高岡直子医師にお世話になっている患者の一人です。これまで何度も減量にチャレンジしましたが、やれお盆だ正月だと勝手な理由付けで放置してしましました。おかげで検査値は悪いほうに上昇するばかり、診察のたびに叱られている不真面目患者でした。

通い始めて三年、粘り強い先生の激励と脅迫(笑)にこたえるべく努力した結果、10kgの減量に成功しました。奇跡的に、約五十年前の体重に戻り、検査値もほぼ平常をキープできるようになりました。おかげで農作業も、これまで以上に頑張れるようになりました。なおこ先生の、だれ一人取り残さない医療姿勢に感謝しています。

その高岡医師が、突然県議選挙に出るという。ビックリして診察の合間にお聞きしました。誰も手を挙げる人がおらず、南城市・島尻郡区が無投票になりそう。これでは知事選挙にも大きなマイナスになる。そこで「戦争をさせないことが最大の予防医療である。」を基本理念として立候補を決定したとの事。超短期決戦で、大変苦労することを覚悟で決意されたことに敬意を表します。医療の現場での経験を活かし、県議会初の女性ドクター議員めざして私も全力で応援したいと思っています。

南城市でのセクハラ問題では、医療の専門的な立場からの確かなアドバイスをを行い、市長の辞職追及のメンバーとしても活動したとのこと。今度の補欠選挙にはセクハラ追及及び腰の自民党元県議が再出馬の予定で、絶対に負けるわけにはいきません。